

セイノーのグループ力を活かしたロジスティクス

セイノーホールディングス株式会社（本社/大垣市田口町1番地、社長/田口義隆）では、セイノーのグループ力を活かしたロジスティクスに力を入れています。

東日本大震災から1年半が経った東北では、主要な駅から離れた三陸沿岸地域で復興に携わる人たちの宿泊施設が不足しています。そこで短期間に低コストで長期滞在者用のホテルを復興作業現場近くに建設し、開業を目指している企業があります。ホテル関連事業などを展開する価値開発株式会社（本社/東京都千代田区、阿部裕二社長）では、1本の貨物用のコンテナを中国の工場ですべてのシングルルームに改装。そのまま海上輸送して、数週間でホテルを作り上げます。

この一連のロジスティクスは、セイノーグループが請け負っています。国際複合一貫輸送事業やコンテナによる混載輸送事業を手掛けるセイノーロジックス（本社/横浜市西区、社長/渡辺景吾）が314室のシングルルームと通路になる改装済みコンテナ172本と、ベッドなどの家具が入った14本のコンテナの海上輸送を企画・実行し、更に家具の搬入と設置は西濃運輸（本社/岐阜県大垣市、社長/大塚委利）仙台支店と山形支店が担当しています。次々に到着するコンテナの輸送の調整や、建設日程に合わせた船のスケジュール調整、家具の搬入人員の調整など、きめ細かくお客さまのニーズに対応できるセイノーのグループ力が発揮されています。



現場に到着した部屋となるコンテナ



家具の搬入の様子



『バリュー・ザ・ホテル 名取』の完成予想図